



研究・研修報告書

令和 7 年 1 月 3 1 日

小牧市議会議長 様

会派名 公明党小牧市議団

代表者氏名 加藤 晶子

研究・研修の結果を報告します。

記

1 参加議員

加藤晶子、星熊伸作、佐藤早苗

2 日程

令和 7 年 1 月 2 1 日 (火)

3 研究・研修名

神奈川県横須賀市

生成 AI (チャット GPT) の活用について

5 会場

神奈川県横須賀市 市役所内

6 受講の目的

全庁的に生成 AI (チャット GPT) を導入された経緯と目的を知るため。

7 主な内容

横須賀市における生成 AI の活用について

8 所感・提言・課題等

日本の人口が減少する中で、横須賀市も例外ではなく労働人口が低下していく。今後、横須賀市の職員の数が減っていても、行政サービスの質の低下は免れなければいけない。そのためには人口減少、少子高齢化に合わせたテクノロジーの活用が不可欠であり、今後のまちづくりに大きな影響を与える。

横須賀市は、基本構想・基本計画『YOKOSUKA ビジョン 2030』を 2022 年に策定し、大局観にたったビジョンとして変化を受け入れて進むまちをテ

ーマに決めた。

ビジョンの中に新たなテクノロジーの活用の方角性についても明記されている。

一方、同時期に生成 AI が 2022 年に 11 月に登場し、瞬く間に全世界にユーザーが広がり、画期的な機能とそのクオリティの高さから注目を浴びた。

生成 AI は、AI の一種で、ユーザーの指示やデータに基づいて、新しいコンテンツ（文章、画像、音声）を作り出すことに特化したものである。

令和 5 年 3 月に横須賀市長から生成 AI である ChatGPT を使って何か活用ができないかとの打診があり、デジタル・ガバメント推進室の主導のもと、事業化が推進、同年 4 月 20 日に全職員利用開始された。

令和 6 年度の予算額は、ICT 利活用費として 720 万円程度である。

令和 5 年度では職員全体で、3,800 人のうち、2,300 人約 60%の方が利用し、年齢に関係なく満遍なく使われている。利用状況のアンケートを実施したところ、仕事の効率が上がった、従来の方法では得られなかったアイデアや知見を得る事ができるなど高評価を得ている。

業務時間短縮の想定では、ChatGPT 利用者数から算出すると文書作成で短縮できる時間が 1 日 10 分と見込むと、年間で 22,700 時間/年の短縮となりかなりの効率化が図られる計算である。

その外にも、自分自身が苦手と思う分野も使う事が出来るので業務の幅が広がり職員全体のスキルアップに繋がる。

小牧市としても、ChatGPT は既に導入されているが、全庁的に広げ万遍なく職員に使ってもらうには、管轄の部署や職員の中でも能力の高い人を中心に勉強会、研修会を開き、新たなテクノロジーに触れるきっかけになれるよう意識の改革をしていただきたい。

今後、人口減少により職員の数が減っても、行政サービスを低下することなく、サービスの維持向上を目指す手段として生成 AI（チャット GPT）を積極的に活用し、それと合わせ働き方改革として業務時間の短縮に努めていただきたい。